

B-39 被服素材の複合に関する研究(第7報) はり合わせビニロン不織布の性能(2)

比治山女短大 ○枝広瑤子, 広島大教育 山田都一・岡部瑞穂

〔目的〕 本報告は、主体繊維(難溶性ビニロン)・バインダー繊維(易溶性ビニロン)を混抄した不織布を2枚はり合わせたものの物性を前報に引き続き検討したものである。

〔方法〕 試料としては、坪量、主体繊維の繊維長、難・易溶性ビニロンの配合割合、抄速をそれぞれ変化させたもの12種類を用いた。はり合わせ条件は、圧力：8 kg/cm²、時間：1 min、温度：20±2°C、50±3°C、70±4°C、100±5°C、130±5°Cの5種、給水率：試料の重さの約150%である。

〔結果〕 ①原布ならばはり合わせ布の裂断長は、主体繊維の長さが大きくなるほど、坪量が大きくなる(厚くなる)ほど、バインダー繊維の配合割合が多くなるほど大(強度大)となる。②はり合わせることによって、たて方向よりもよこ方向の方が強度の増加率は大きい。③原布ならばはり合わせ布の剛軟度は、坪量が大きくなるほど大となる。④はり合わせ布の剛軟度は原布の剛軟度の影響が大きい。⑤はり合わせ布のはく離強さは、バインダー繊維の配合割合が増すほど、主体繊維の繊維長が大きくなるほど増す。また、その温度が約100°Cまでは、温度が高くなればなるほど増加する。⑥原布のシワ回復率は坪量の小さい(薄い)ものほど、主体繊維の繊維長の大きいものほど、バインダー繊維の配合割合の少ないものほど大である。⑦はり合わせることによって、シワ回復率はよくなる。また、ある温度のところで、シワ回復率は最大値を示す傾向がある。